

大洲市6月定例議会

～日本共産党 梅木かづこの議会報告 その2～

肱川地域の病院の確保について

「**肱川地域に病院を**」の署名423筆、清水市長に届く

引き続きはがき署名を市長に届けましょう

＜梅木市議の質問＞

市長は3月議会で、「福田医院の現在の施設を民間に継承して頂くのがもっともいい。外から来られる人の一番の重要なことは、具体的にどの程度診療に来るのか、経営がなりたつのか、これに対して市がきちっとしたかたちで保障できるのか、診察環境が十分整っているのかなど考えられる、他市町や医療関係者のご意見も聞き条件を整えて医師募集していきたい。医師確保に最大限の努力をしていきたい。」と答弁されました。また長期にわたり地域医療に貢献された福田医院への感謝を表しました。病院の確保について現在の進捗状況をお答えください。

＜市長答弁＞ 福田医院を継続させることが肱川地域の皆さんの要望と思う。全力を尽くしたい。思いを重く受け止め、医師確保していきたい。

＜理事者答弁＞ 大洲市の公式ホームページの移住定住サイトで「病院の施設、機器を活用して、地域医療を支えてくれる医師募集」を出している。

肱川地域の方々、市長のこの答弁に期待をしつつ、自分たちも何かしたい、市長への応援と来てくれる医師へ歓迎をする気持ちで、はがきを市長に届けています。

現在のはがき署名数を明らかにしてください。また、皆さんが一言を届けられていると思います。主な声をお聞かせください。また、この思いに是非応えてほしいと思いますがいかがですか。

＜理事者答弁＞ 5月18日から市長宛に「肱川地域に病院を確保してください」というはがきが届き始めた。6月9日までに157枚423名になる。(その後63筆)。私の一言が書かれていたのは8枚で、「病院がないこの数ヶ月、本当にたいへんだった。学校、高齢者の多いところ

では是非必要。車の運転ができない高齢者が増えています。是非、肱川に病院を確保してください。福田医院を高齢者施設にできないか」という声でした。大洲市にとって、地域医療の確保は重要な政策。将来にわって安心して医療にかかれるように努力したい。

身近にかかりつけ医を持つことがいわれ、大病院は5000円の別費用が必要となるといわれています。高齢者にとって、身近に病院があることが安心を生み出します。また、学校・病院・金融機関などがあってこそ安心して住める町といわれています。市民の願いに応える対応を今後どのように進めていくおつもりかお聞きします。

＜理事者答弁＞ 安心して生活できるように、かかりつけ医を啓発していきたい。

山鳥坂ダム建設事業に伴う説明会が行われました

山鳥坂ダム事務所から石岡副所長はじめ5名が、また、愛媛県土木事務所から3名が説明されました。また、大洲市職員も参加しました。梅木かづこ市議も参加しました。

＜行政から、質問に対する説明＞

崩落事故で県道の役割を再認識した。崩落場所は、順調にいつている。上から1/3間で切り込んでいる。12月をめどにやり、その後、肱川の入り口をすすめたい。付け替え県道は平成36年には完成したい。ダムの地質調査をする事で山は動いていない。

県道の河辺町北平（竹の瀬）については、用地の事もあり、いつまでに終わるとはいえない。来年一部工事着手したい。北平（一ノ瀬）の拡張や山際の工事を行っている。横山の工事が終わるので、続けて次の箇所をやりたい。メンテナンスは、肱川から河辺支所まではやるが、基本は年1回7～8月のみ。目に余る部分は言ってもらえばやる。

事故の際の迂回路については、横山から五十崎に抜ける道、中居谷線など検討している。また、野村に抜ける道もありかと思う。

梅木かづこ市議は、「竹の瀬の県道でガードレールがない場所があり危険」と指摘。

早速、工事が行われました（右写真は工事中の様子）。

